

経済・金融 フラッシュ

08年4-6月期資金循環統計： 4四半期ぶりに個人金融資産残高増加

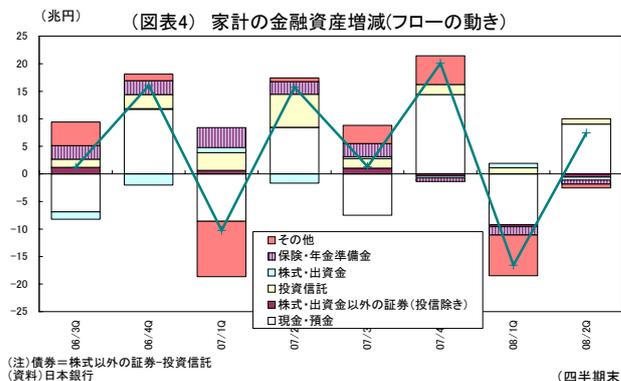
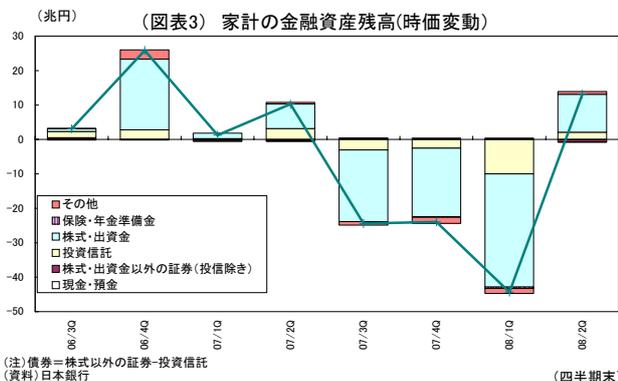
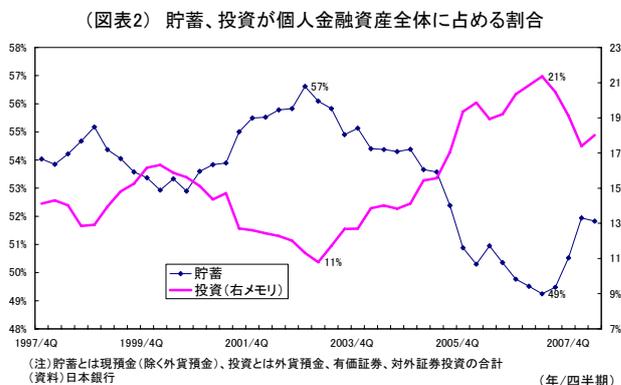
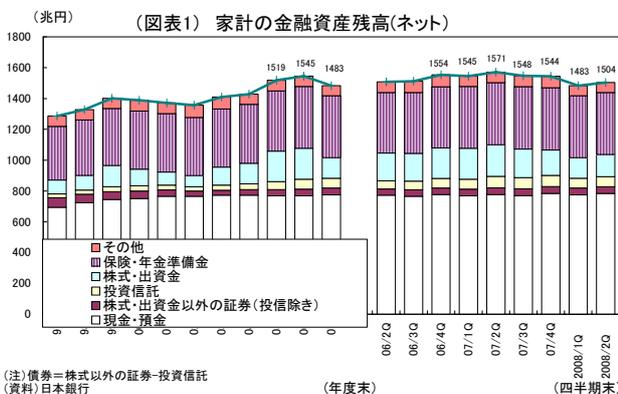
経済調査部門 主任研究員 矢嶋 康次

TEL:03-3512-1837 E-mail: yyajima@nli-research.co.jp

1. 個人金融資産残高：4四半期ぶりに残高増加

08年4-6月期末の個人金融資産残高は、4四半期ぶりに増加し、1504兆円となった（図表1）。残高では、現金・預金が784兆円、保険・年金準備金が402兆円、株式・出資金が143兆円の順番で多い。図表2のように貯蓄と投資に分けてみると、昨年夏からの「投資から貯蓄」への回避の動きは一旦収まっている。

ただし、金融資産の増加は株式や投信の時価が4四半期振りプラスに転じたことが大きい（図表3）。時価変動の影響を除いたフローの動きで見ると、増加幅は大きなものとはなっていない（図表4）。金融資産残高の増加が低調であること、安全志向が強いという傾向に大きな変化はない。

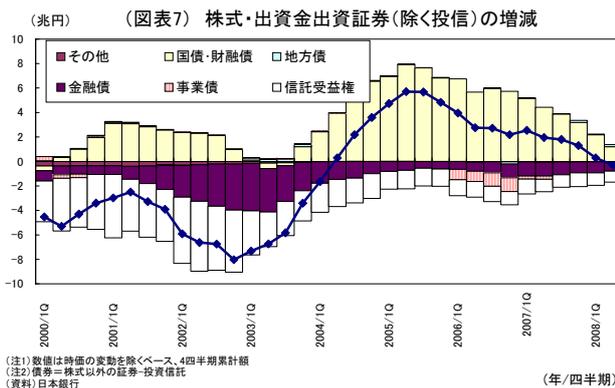
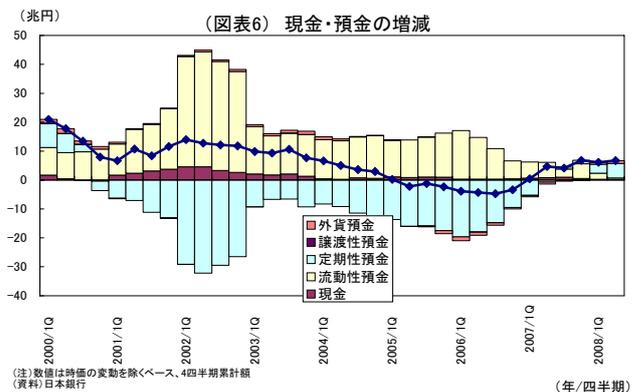
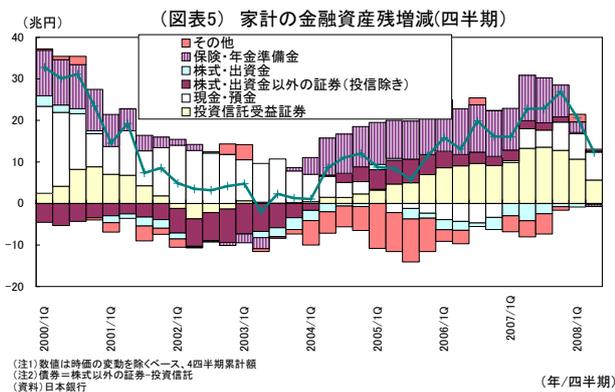


2. フローの動き(時価除き) : リスク資産から安全資産へ

個別金融資産の増減を時価変動を除き4四半期累計という少し長めのタームで「基調」を捉えたものが図表5-7となる。特徴としては以下の点が指摘できる。

- ① 投資信託への流入額が3四半期連続で縮小(図表5)。
- ② 現金・預金が6四半期連続のプラス(図表6)。
- ③ 定期性預金が4四半期連続でプラス幅拡大(図表6)。
- ④ 証券(投信信託を除く株式・出資金以外の証券)では、引き続き金融債、信託受益権からの資金流出が続く。一方、国債への流入はプラスが続いているが、流入額は縮小傾向が続いている(図表7)。

全体としては、月次のマネースtock統計の動きと同様に「昨年夏以降、投信などのリスク性資産への流入が頭打ち、一方で定期預金を中心とした安全資産への流入増」が確認できる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。